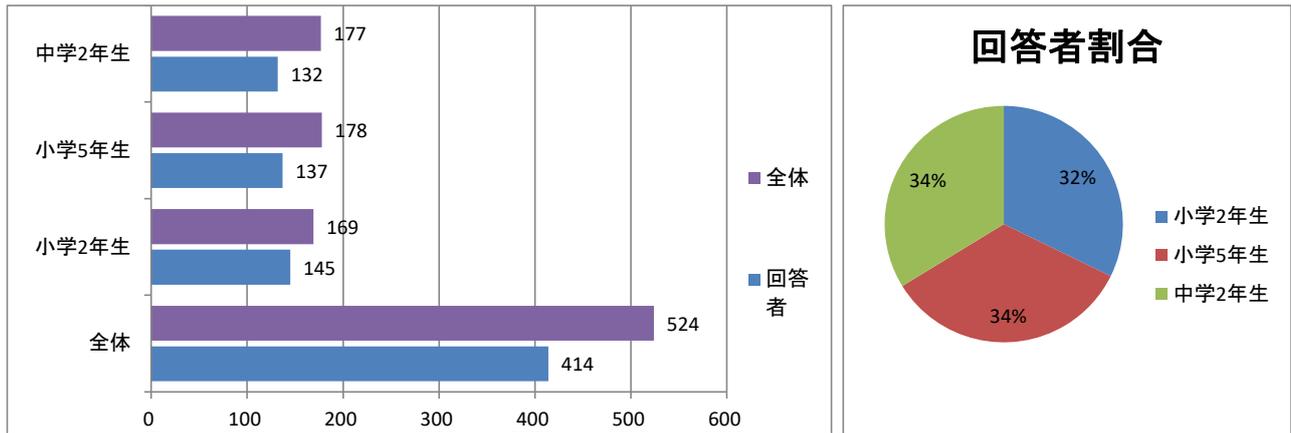


R3年度 子ども読書アンケート結果 グラフ（児童生徒）

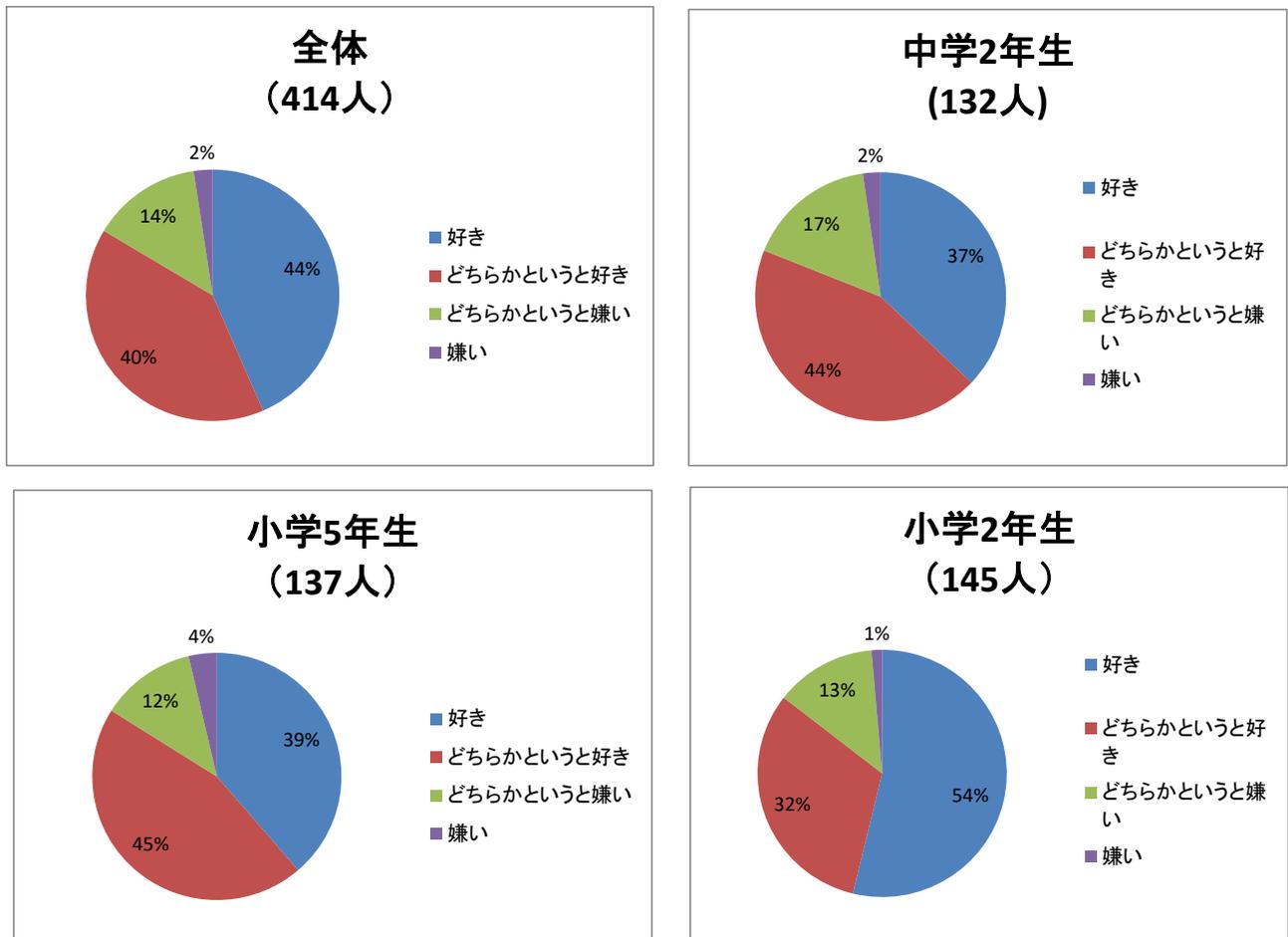
問1. 学年別



<考察>

回答者は、中学2年生は、177人中132人で回答率74%、小学5年生は、178人中137人で回答率76%、小学2年生は、169人中145人で回答率85%、全体では524人中414人で回答率79%となっている。

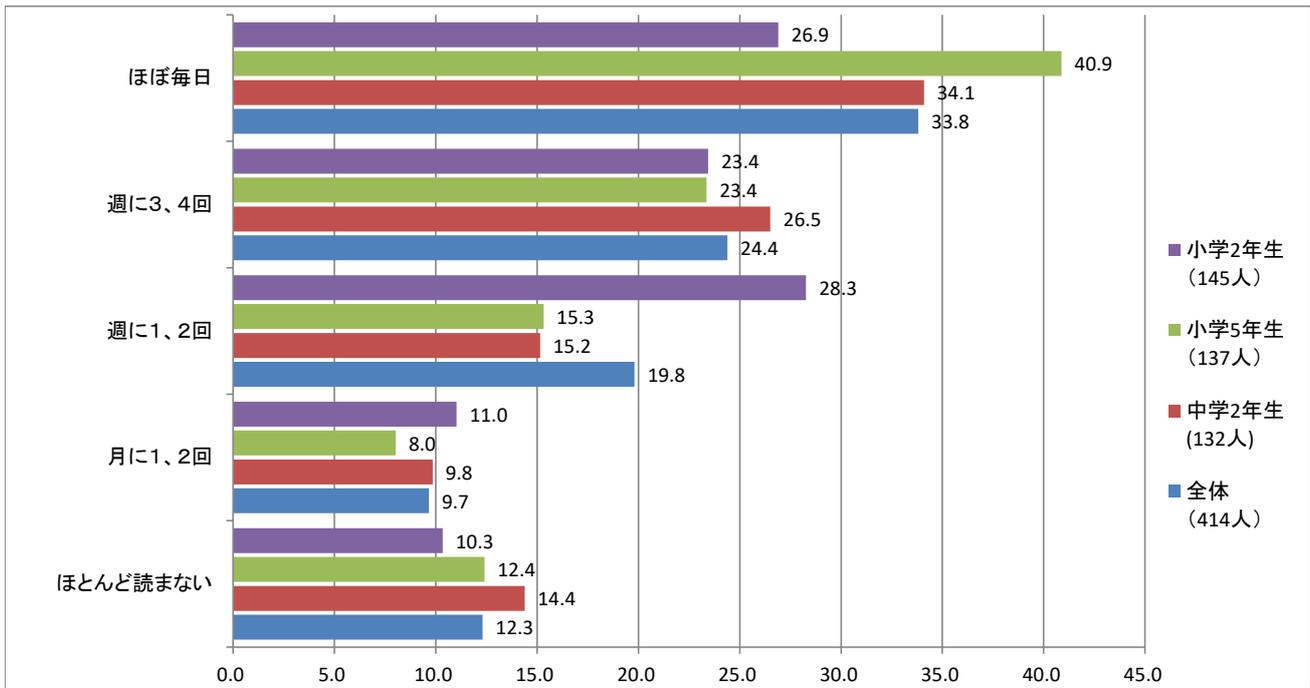
日ごろの読書について 問2. 読書が好きかどうか。



<考察>

年齢が上がるにつれて、「好き」の割合が減ってくるものの、読書が好きかどうかでは、割合にして、「好き」、「どちらかという好き」を合わせると84%になっている。このことから、子どもたちが読書に親しんでおり、本や図書館を身近に感じていることが分かる。

問3. どのくらいの割合で読みますか

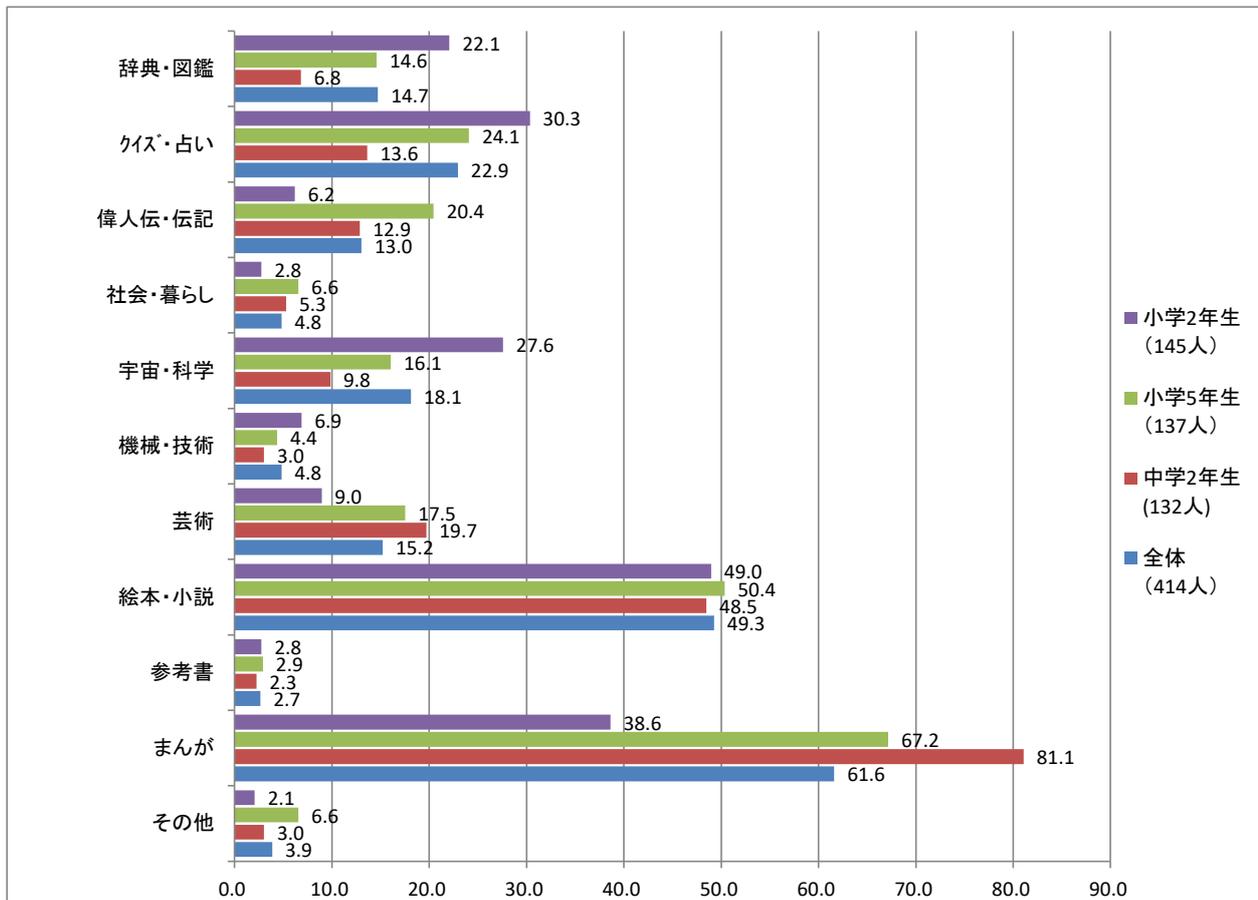


<考察>

どのくらいの割合で読みますかでは、割合にして「ほぼ毎日」「週に3、4日」「週に1、2回」と合わせると、78%になっており、本をよく読んでいる。

しかし、小学2年生では、「週に1、2回」が一番多く、毎日読書をする習慣は、上の学年に比べて定着していない。

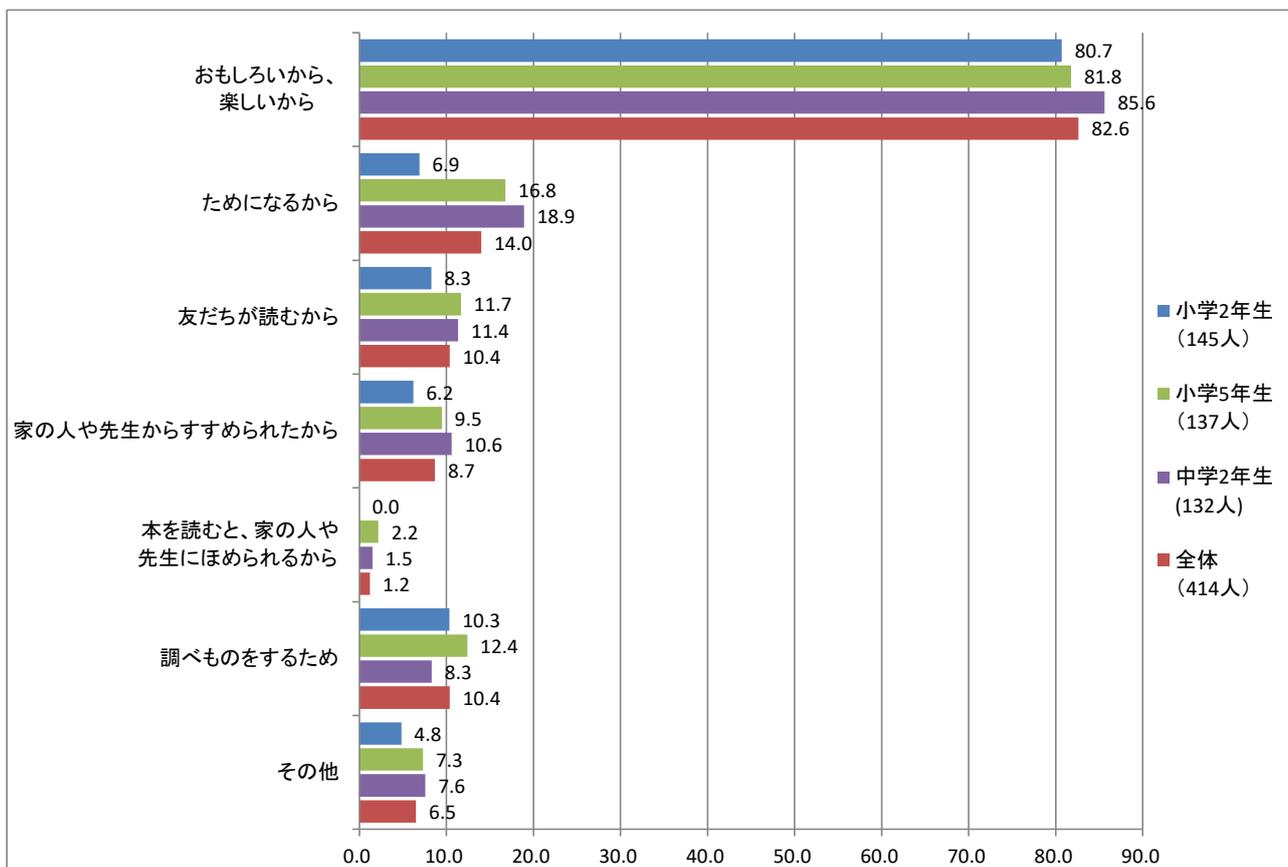
問4.好きな本のジャンル(複数回答可)



<考察>

好きな本のジャンルでは、「まんが」、「絵本や小説」が多く、自分が楽しむための本が好きである。また、「芸術」、「宇宙・科学」、「偉人伝・伝記」、「クイズ・占い」、「辞典・図鑑」等、いろんなジャンルの本に親しんでいる。

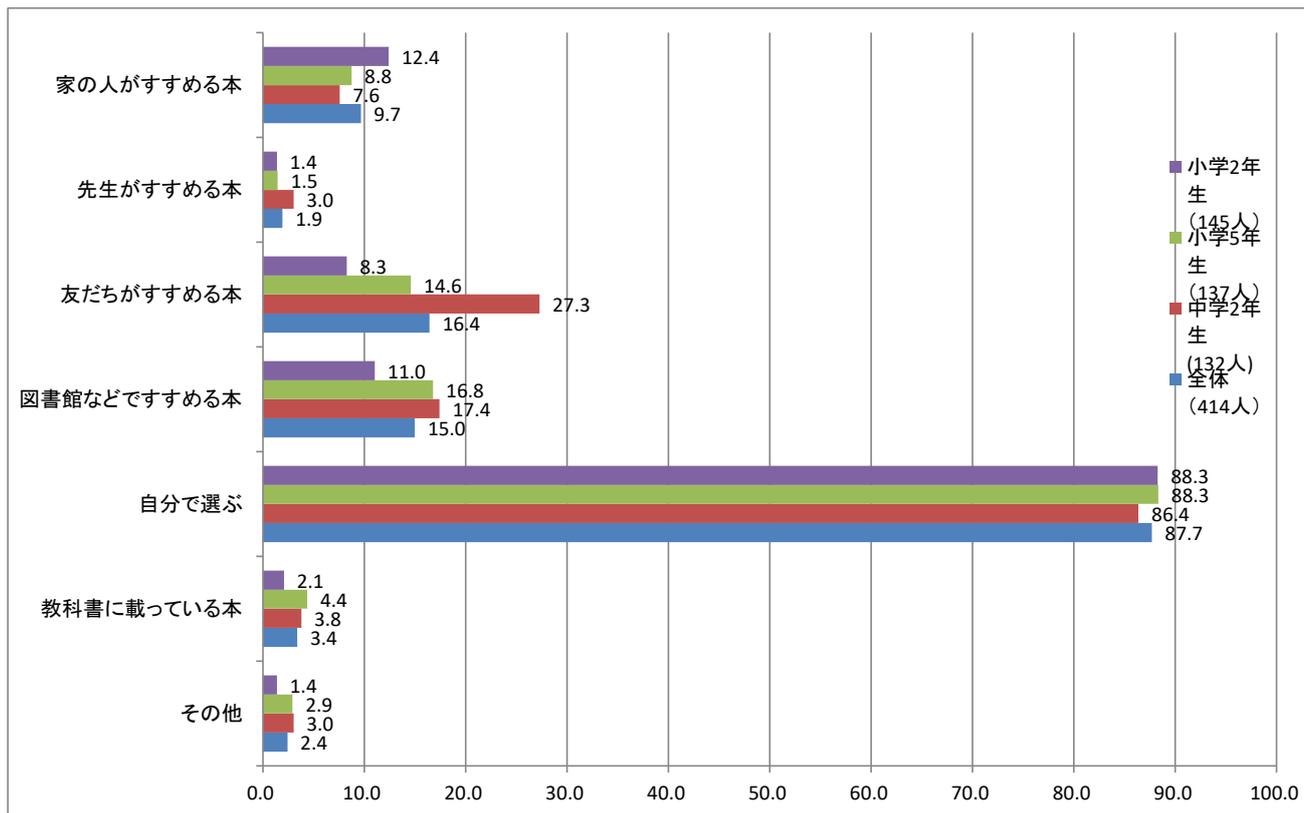
問5.本を読むようになったきっかけ(複数回答可)



<考察>

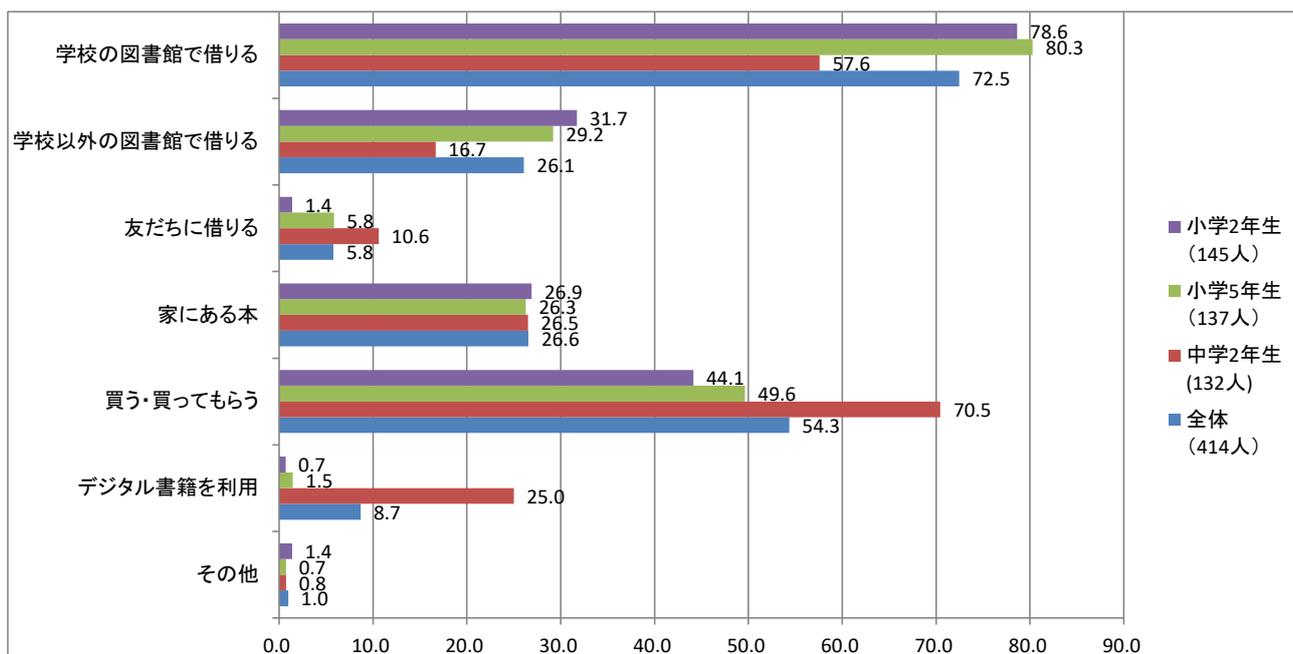
本を読むきっかけとして、「おもしろいから、楽しいから」が突出しており、娯楽要素が高く自分が楽しむための読書になっている。また、「ためになるから」や「調べものをするため」の割合が多いのは、授業での調べ学習が定着していることがうかがえる。「友だちが読むから」や「家の人や先生からすすめられたから」も多く、本についての話題が日常的にあることがうかがえる。

問6.本をどのようにして選んでいますか(複数回答可)



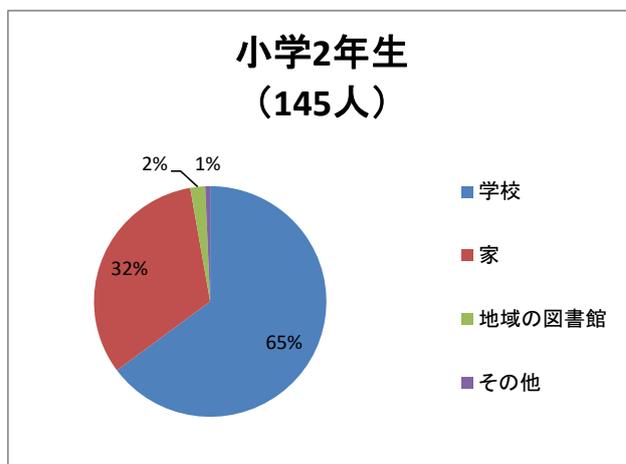
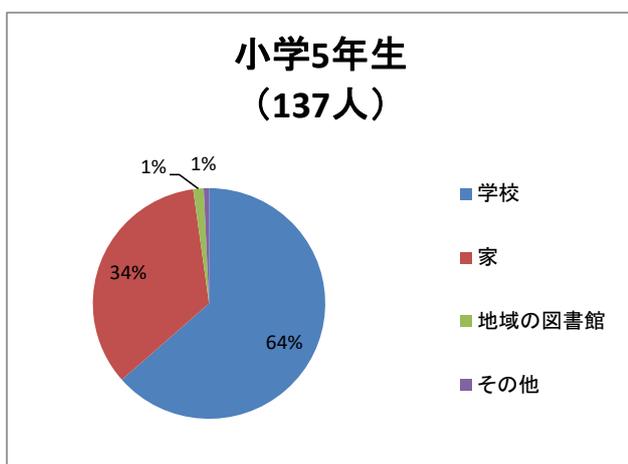
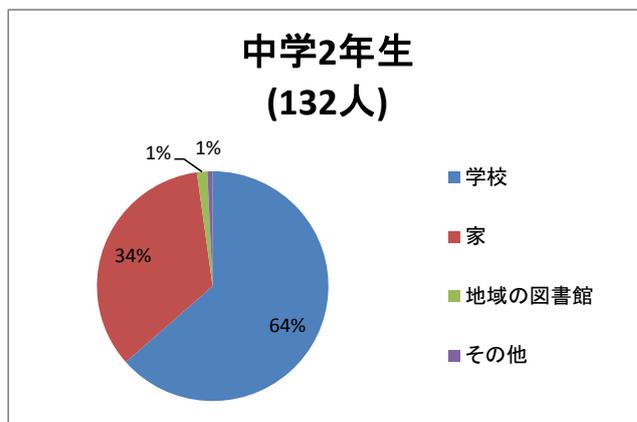
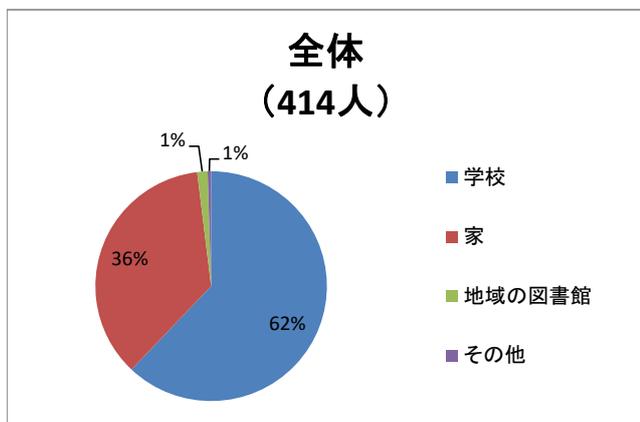
<考察> 選書方法では、「自分で選ぶ」が突出している。「友だちがすすめる本」では、学年が上がるにつれて増えてきていることから、選書にあたっては、交友関係の影響が見られる。

問7. 本をどのようにして求めていますか(複数回答可)



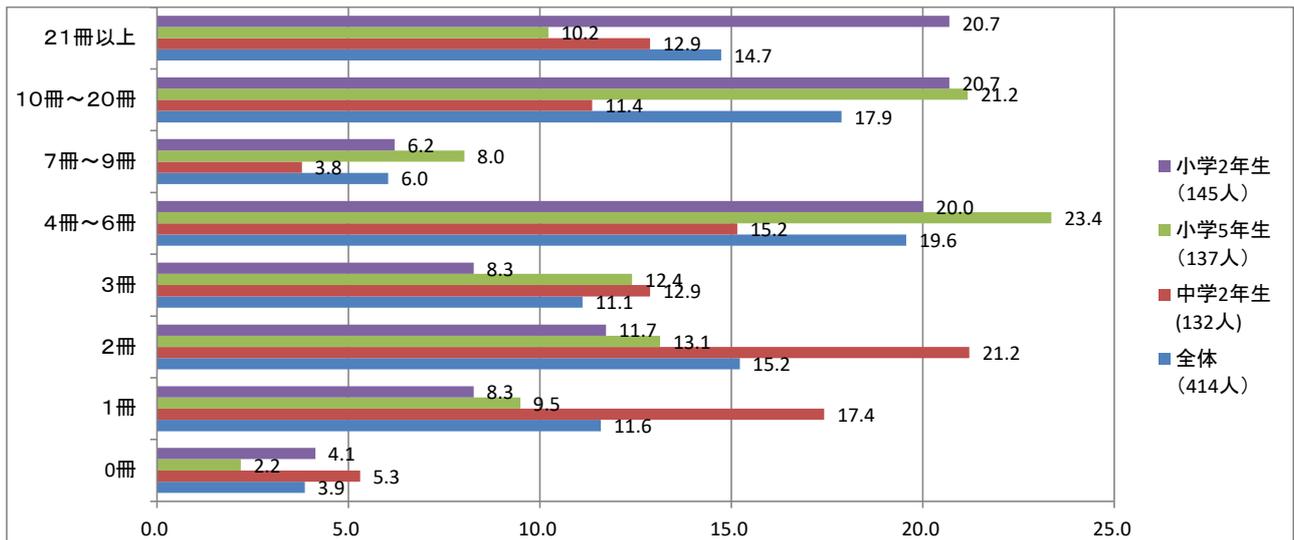
〈考察〉本の求め方では、全体的には、「学校の図書館で借りる」が多く、学校図書館がよく活用されていることが分かる。また、中学2年生は、読みたい本をいつでも手元に置いておける「買う・買ってもらう」、「デジタル書籍を利用」も多くなっている。

問8.本を読む場所



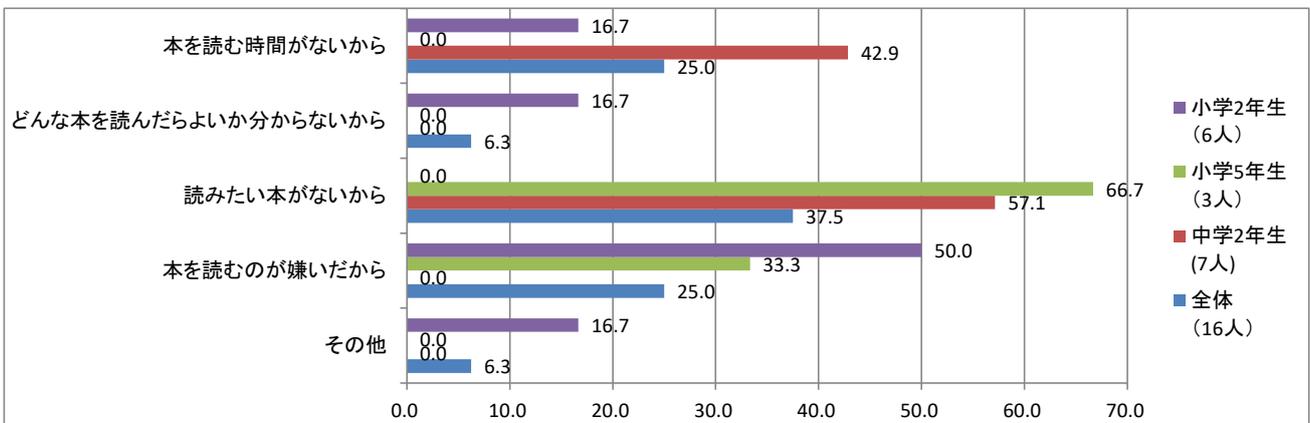
〈考察〉本を読む場所で、学校が多いのは、朝読書がほとんどの学校で行われており、授業でのプリント学習等で早く終われば読書をするなど、本を読む時間が確保されているからである。

問9.1か月に読んだ本の冊数(R3年11月)



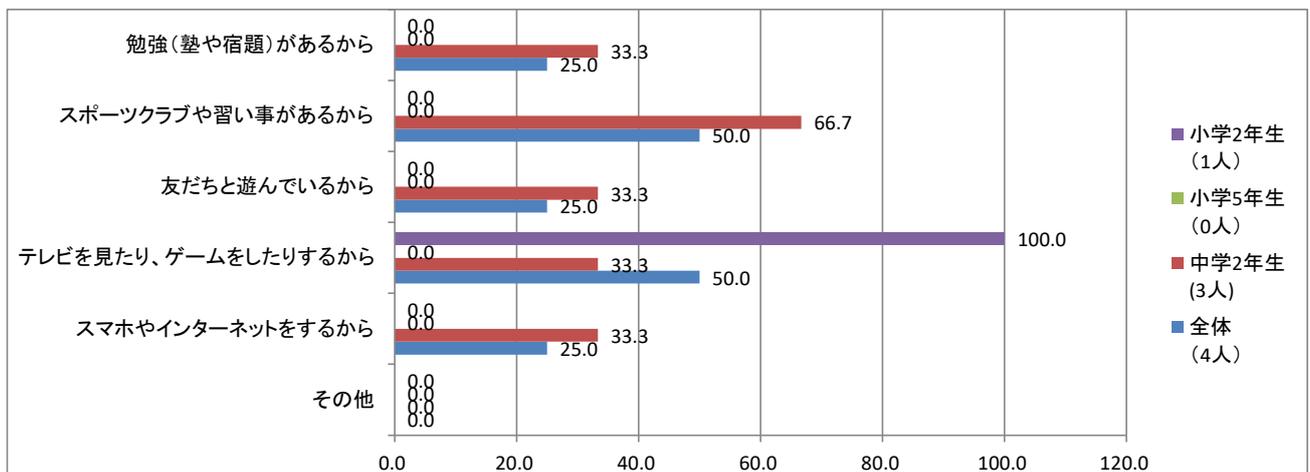
＜考察＞ 1ヶ月に読んだ本の冊数では、アンケート調査の時期が11月で秋の読書月間などもあり、冊数が伸びていると思われる。しかし、前回調査の平成27年と比べると「21冊以上」では、小学2年生で、平成27年40.0%が20.7%に、小学5年生で、12.6%が10.2%に減少し、中学2年生で、平成27年3.2%が12.9%に増えている。「4冊以上」では、小学2年生で、平成27年84.1%が67.6%に、小学5年生で、67.3%が62.8%に減少し、中学2年生で、平成27年40.5%が43.3%に増えている。スマホ・タブレットの活用が低年齢化しており、読書離れがうかがえる。

問10.本を読まなかった理由(問9で「0冊」と回答した者のみ)



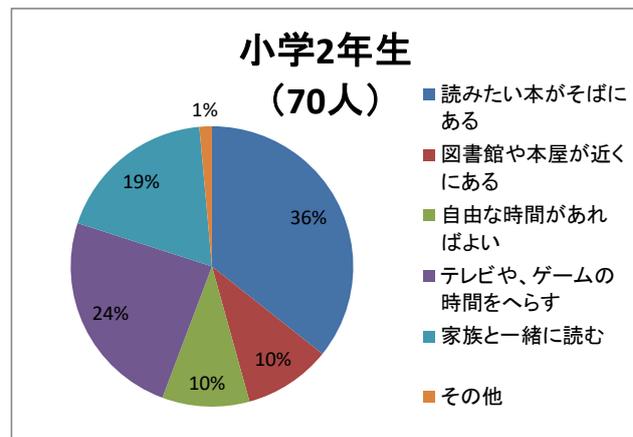
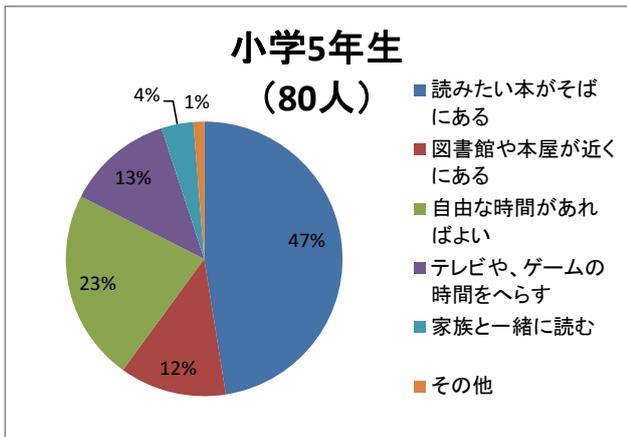
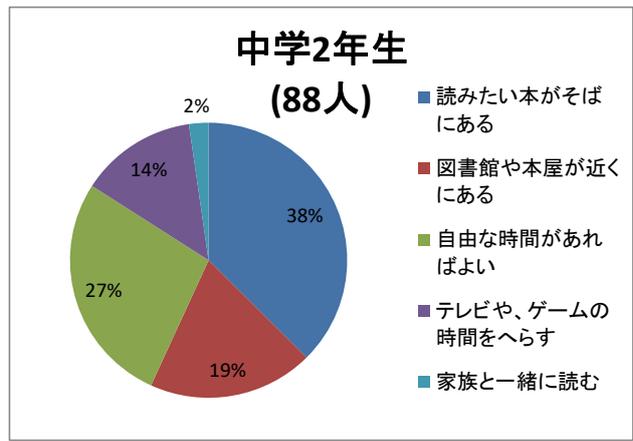
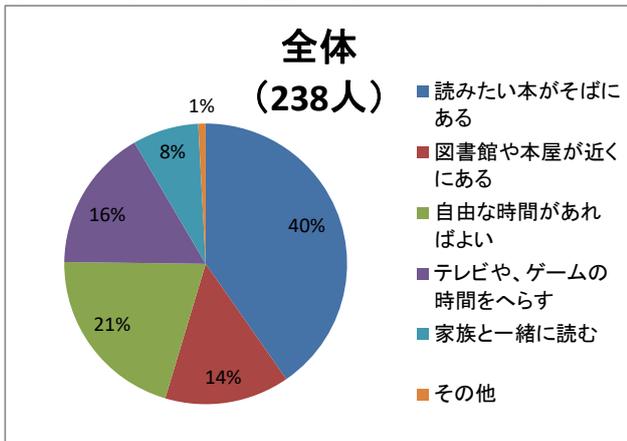
＜考察＞ 全く本を読まなかった理由として、「読みたい本がないから」が多いのは、本を選びたくても選べない、図書館にどのような本があるのかわからないためであり、本を読む子どもと読まない子どもの差が大きいことがうかがえる。

問11.本を読む時間がなかった理由(問10で「読む時間がない」と回答した者のみ)(複数回答可)



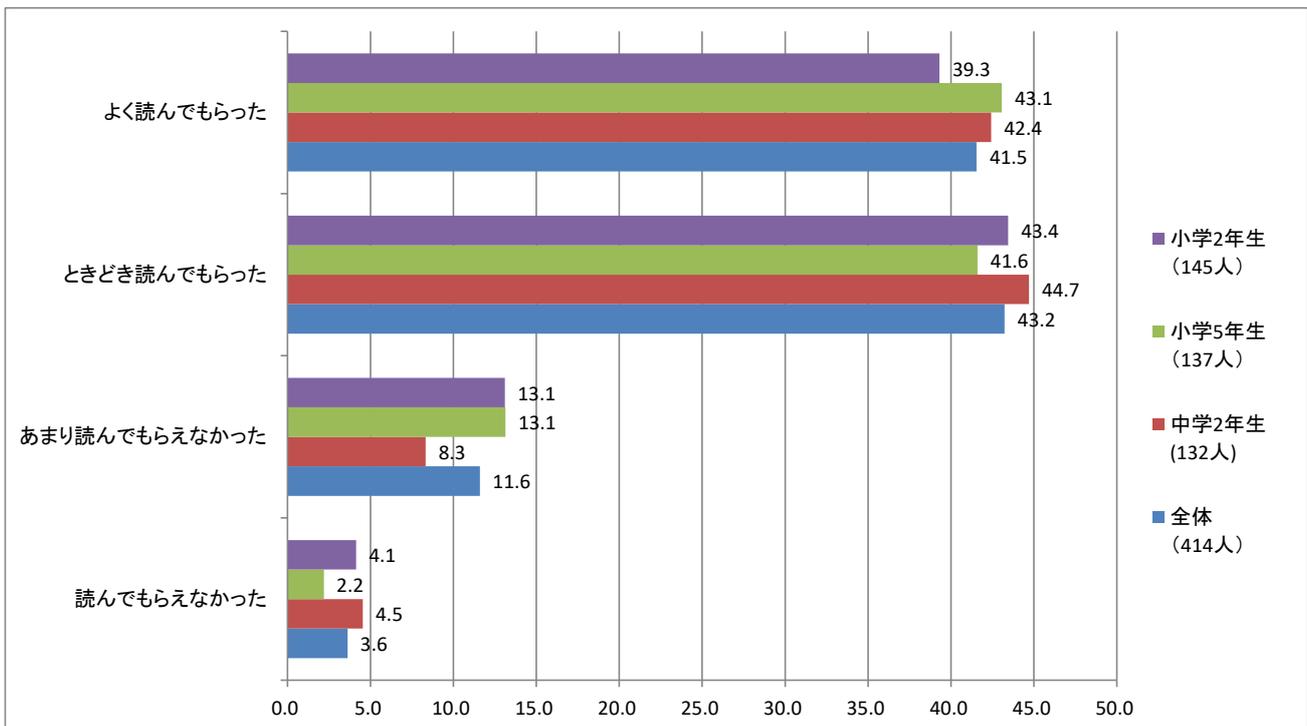
＜考察＞ 本を読む時間がなかった理由として、「スポーツクラブや習い事があるから」が多く、子どもたちが、放課後や週末を忙しく過ごしていることがうかがえる。中学生では、部活動や塾以外にも、「テレビを見たり、ゲームをしったりするから」や「スマホやインターネットをするから」があげられ、映像の方を好む様子がうかがえる。

問12.どのようにしたら本を読むようになると思いますか



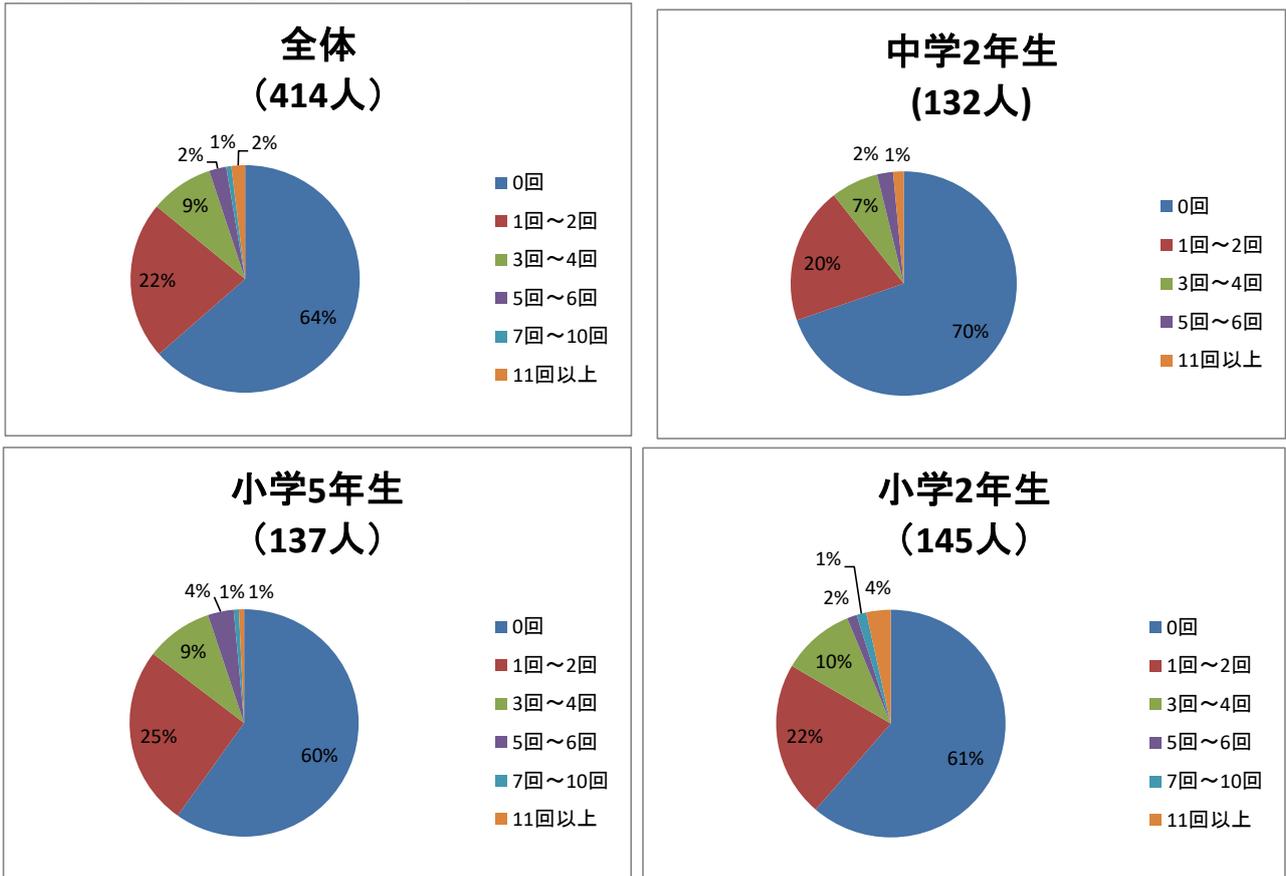
〈考察〉「どのようにしたら本を読むようになるのか」では、「読みたい本がそばにある」「図書館や本屋が近くにある」の割合がどの学年も多く、自分で本を選ぶや買うなどの記述回答と合致していることが分かる。また、「自由な時間があればよい」が次にあり、現代の子どもの多忙さを表している。

問13. 家での読み聞かせについて



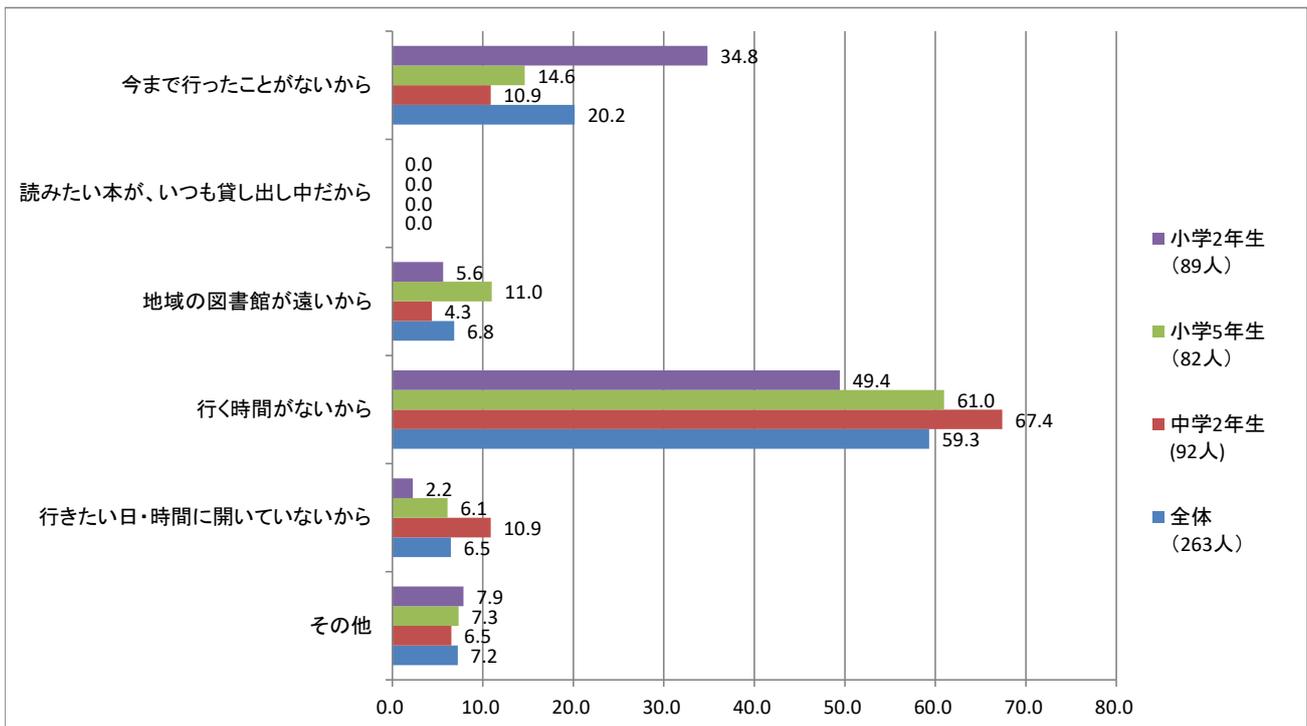
〈考察〉「よく読んでもらった」、「ときどき読んでもらった」を合わせると、どの学年も80%を超えており、保護者の読み聞かせへの関心の高さがうかがえる。一方で、「読んでもらえなかった」「あまり読んでもらえなかった」を合わせると、全体では15%ほどあり、家庭での読書環境の差が大きいことがうかがえる。

市立図書館・学校図書館について
問14.地域の図書館に行った回数(R3年11月)



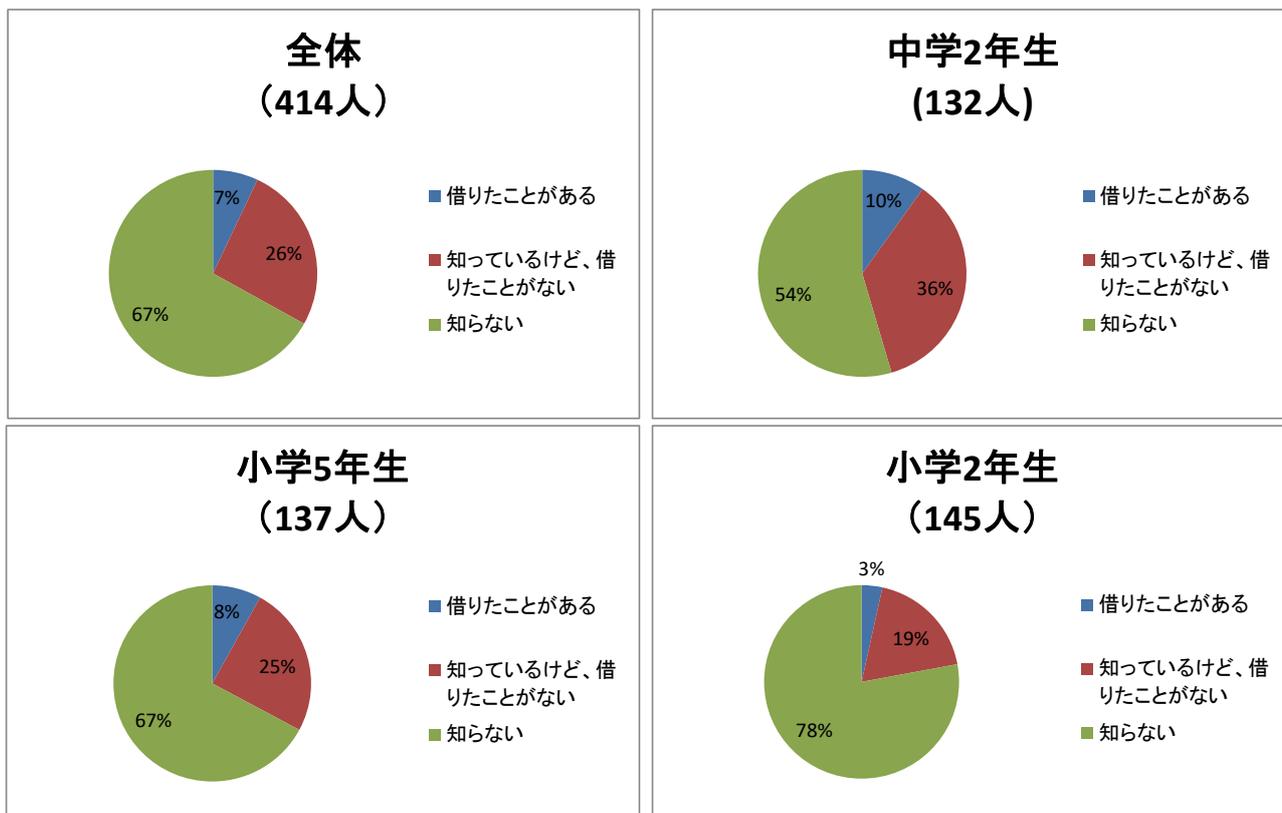
〈考察〉 地域の図書館の利用については、「0回」の割合が小学2年生、5年生では60%、中学生では70%であり半分以上の児童生徒が利用していないことが分かる。
3つのグラフの割合が似ていることから、図書館を利用する子どもと利用しない子どもに分かれることが推測できる。

問15.地域の図書館へ行かなかった理由(問14で「0回」と回答した者のみ)(複数回答可)



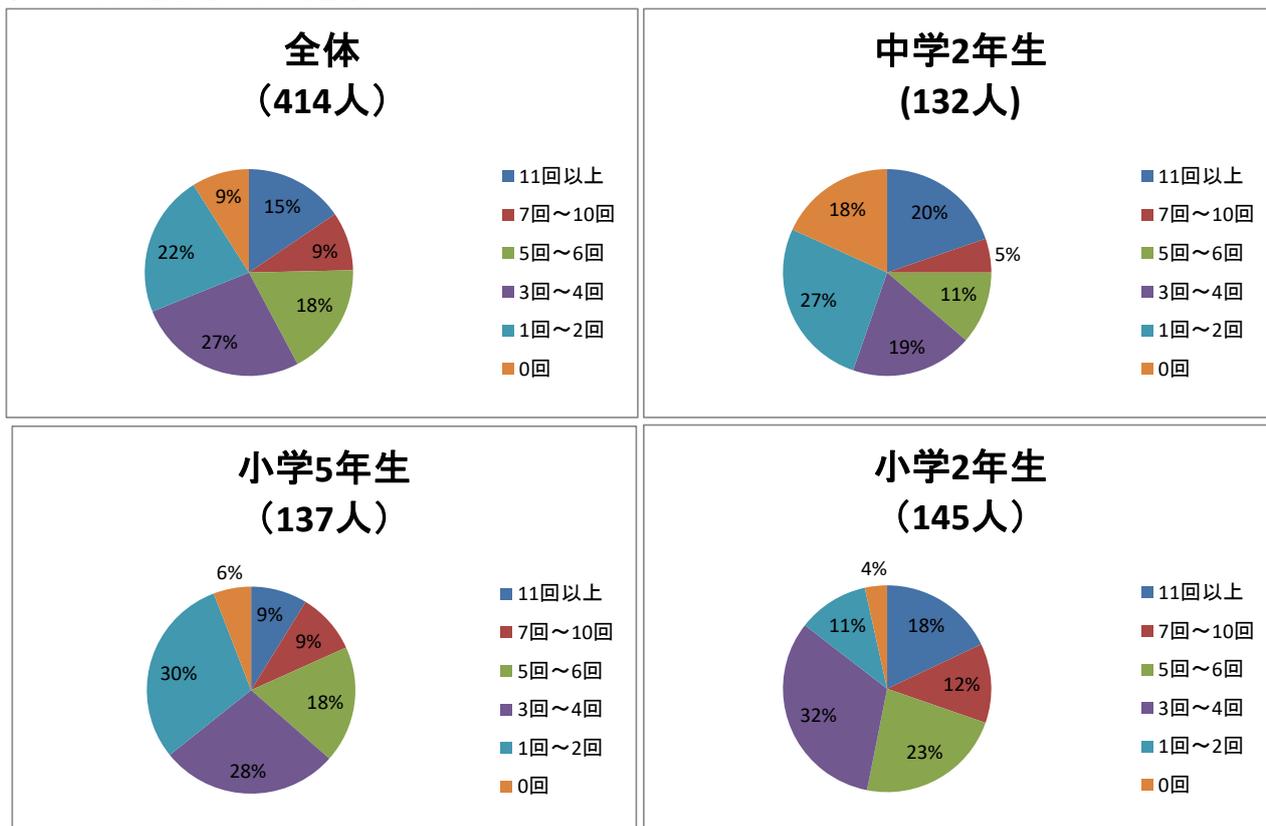
〈考察〉 地域の図書館へ行かない理由としては、全体的に「行く時間がないから」が一番多く、「今まで行ったことがないから」が次に多くなっている。これは、親子で図書館を利用することと関連があり、図書館から遠い地域の子どもの場合は親が連れて行かないと利用しないことが分かる。中学生は、「行きたい日・時間に開いていない」も多く、部活動等と関連があることがうかがえる。
この2年間は、新型コロナにより図書館見学や職場体験が実施出来なかったことも大きく作用している。

問16.電子書籍があるのを知っていますか



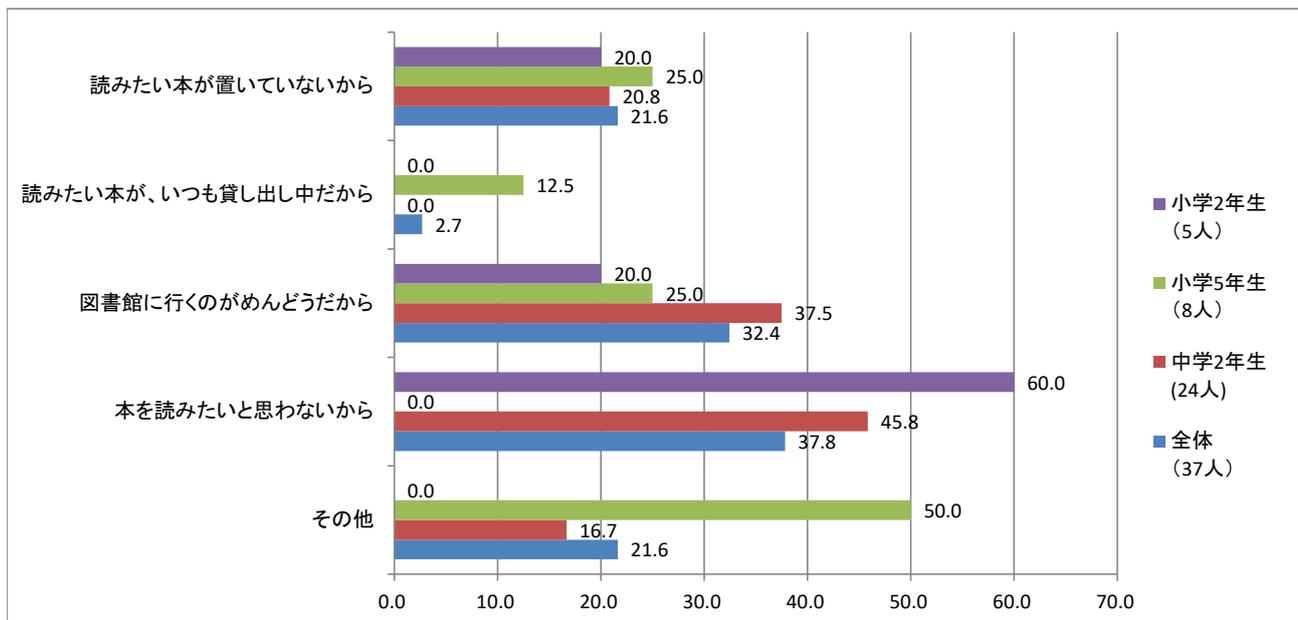
<考察>
電子書籍については、全体では、「知らない」が67%ある。その中でも、「借りたことがある」と回答した子どももいる。

問17.学校の図書館に行った回数(R3年11月)



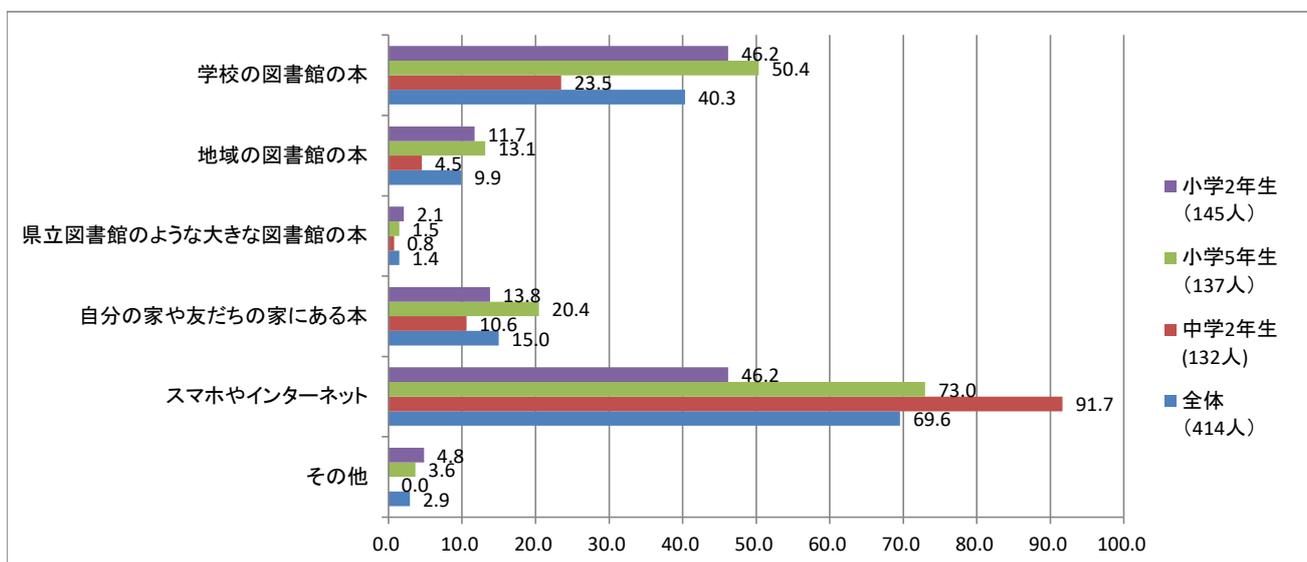
<考察> 学校図書館に行く回数は、全体的にばらつきがあることから、個人差が大きいことがうかがえる。小学生は、ほとんどの児童が月に1回以上図書館に行っており、年に数回企画されている読書月間が功を奏している。

問18.学校の図書館へ行かなかった理由(問17で「0回」と回答した者のみ)(複数回答可)



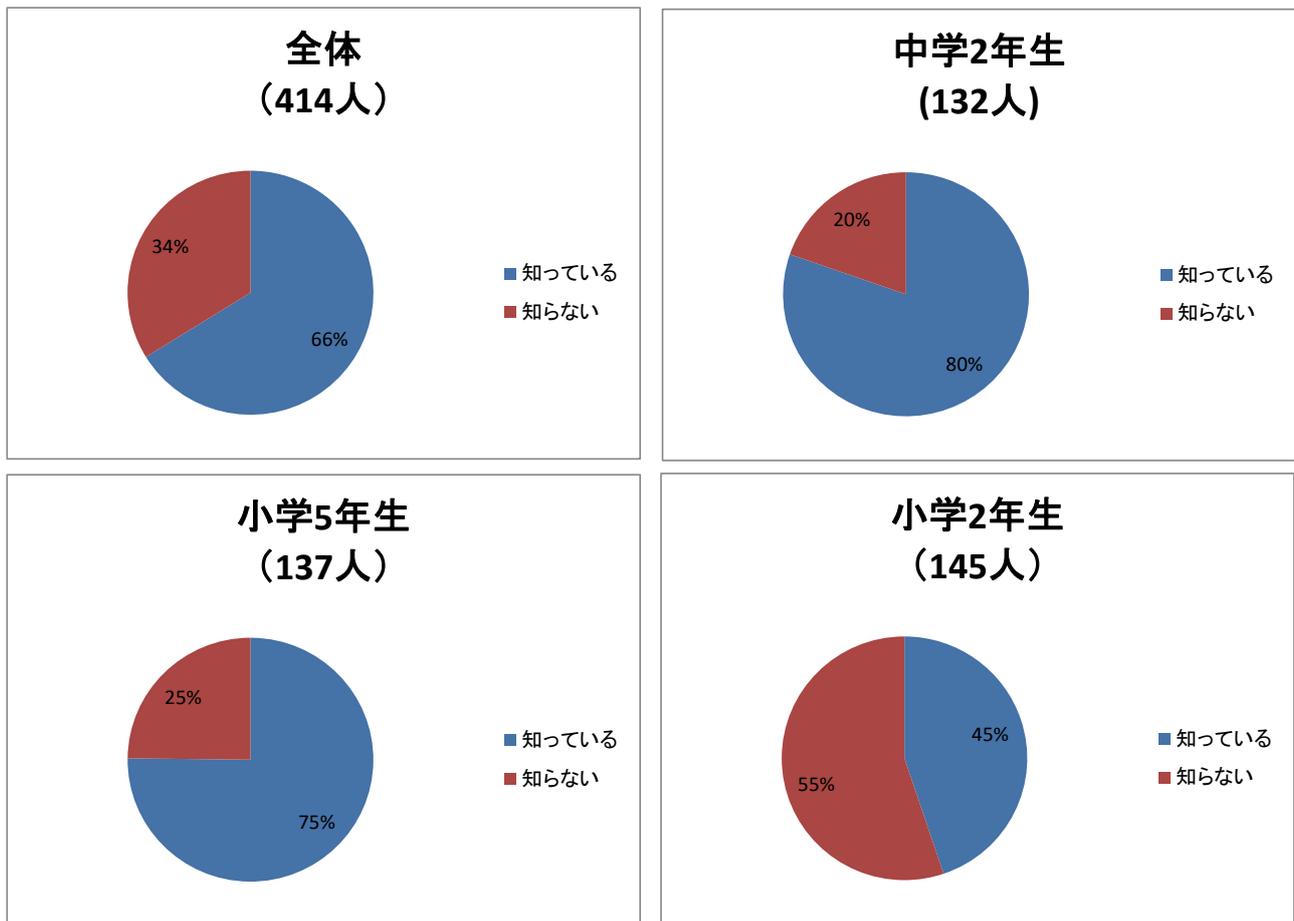
<考察> 学校図書館へ行かない理由としては、「図書館に行くのがめんどうだから」、「本を読みたいと思わないから」の割合が多い。「読みたい本が置いていないから」の割合も多く、予算の関係上、娯楽読書的な本の購入が難しいことや新刊情報が伝わりにくいことも関係していると考えられる。

問19.調べ学習では何を使って調べていますか(複数回答可)



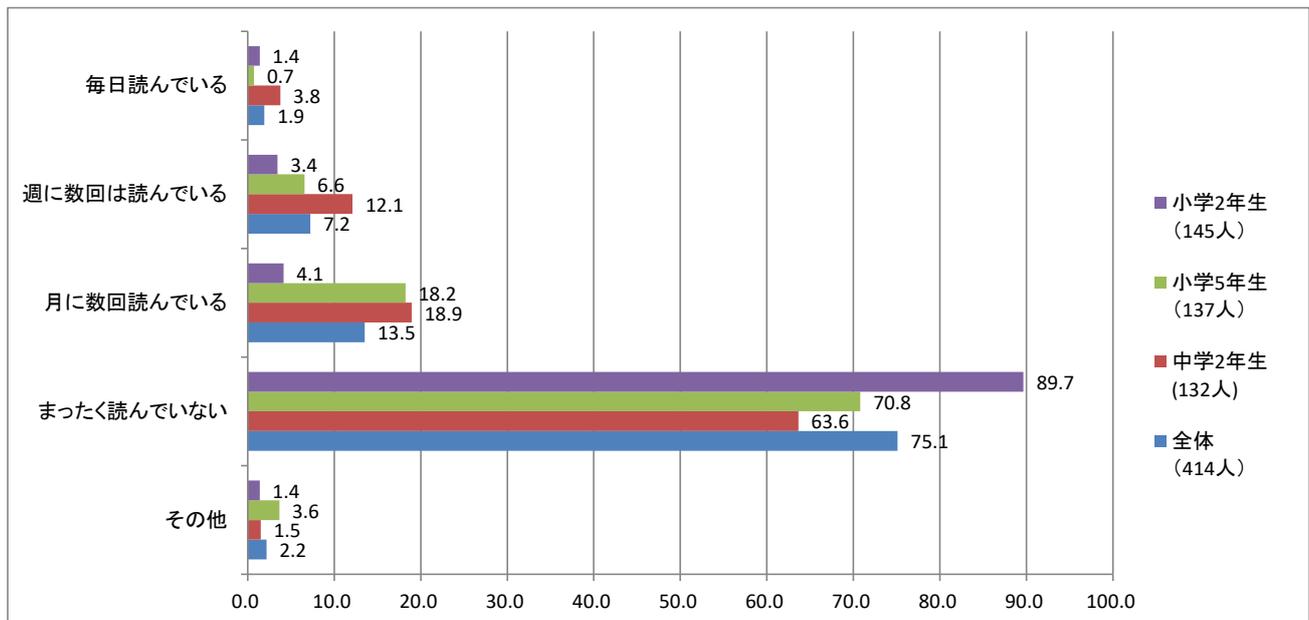
<考察> 調べ学習の方法としては、「スマホやインターネット」と「学校の図書館の本」によるものがほとんどで、子どもたちにスマホやタブレット利用が大きな影響を占めていることがうかがえる。

問20.学校に新聞があることを知っていますか



<考察> 学校に新聞があることは、中学2年生で80%、小学5年生で75%が知っていると回答しているため、ほとんどの児童生徒が知っていることが分かる。これは、NIEの授業を実施していることや新聞の保管場所などによるものと考えられる。

問21.家や学校で新聞を読みますか



<考察> 新聞を読んでいるかどうかでは、中学2年生で34.8%の生徒が読んでいると答えているが、「まったく読んでいない」は、前回調査の平成27年50.0%が63.6%と増えており、新聞離れが進んでいる。文字よりも、スマホやテレビなどのメディアによる情報入手が、ほとんどであることが分かる。